

A 編 : 数値データによる現状認識

基本データ：データが揃っている最新の年度が平成 8 年度であったため、基本的な整理は平成 8 年度（1996 年度）を対象とした。（H10 年夏時点）

表の見方： 岐阜大学附属図書館の数値データを他大学附属図書館データと対比する形式で、基本的に整理した。

国立大学 A, B, C, D の分類： 学部数の多さによる分類で、
国立大学 A は 8 学部以上の大学 15 校、
国立大学 B は 5～7 学部の大学 15 校、
（地域科学部ができて岐阜大学も B に分類される。）
国立大学 C は 2～4 学部の大学 30 校、
国立大学 D は単科大学 38 校。

なお、公立大学は A が 1, B が 3, C が 20, D が 33, 計 57 校。
私立大学は A が 13, B が 35, C が 156, D が 227, 計 431 校。

大学平均と館平均： 大学 A ランクでは本館を含む分館数が約 11.7 館、B ランクでは 2.7 館、C ランクでは 1.6 館、D ランクでは 1.2 館ある。表の大学データを比較するとき、大学平均か館平均かを見極めて下さい。データがないために別々の整理で、統一されていない表があるので注意下さい。

* 出典： 基本的に他大学のデータは次の資料に依った。

文部省 学術国際局 学術情報課：平成 9 年度 大学図書館実態調査結果報告、平成 10 年 3 月、84p.
（MESSC 3-9805）

数値情報の注意： よく「数値は一人歩きする」と言われ、その弊害には十分留意して、ご理解下さい。数値の集計の仕方が大学によって若干異なる場合があるからです。特に、図書館経費に関する扱いは大学により相当な違いがあるようで、単純な比較は避けるべきこととご理解下さい。